



〒 100-8968  
東京都千代田区永田町 1-6-1 内閣府庁舎 6階  
TEL 03 (5253) 2107 (採用専用)  
TEL 03 (3581) 5083 (直通)

内閣官房内閣情報調査室



採用案内  
2017



# Contents

01	内閣情報調査室を志望する皆さんへ	01
02	内閣の総合戦略機能、内閣官房	02
03	内閣を「情報」で支える内閣情報調査室	03
04	内閣情報調査室の歴史と発展	04
05	内閣情報調査室の体制	06
06	内閣情報調査室の役割	07
07	内閣衛星情報センター ～情報収集衛星の開発、運用～	10
08	内調職員の座談会	12
09	内調職員の日	14
10	内調若手職員（係員）の働き方	16
11	内調職員のキャリアステップ	18
12	内閣衛星情報センター職員のキャリアステップ	19
13	業務に関するQ & A	20
14	待遇・制度等	21
15	採用に関するQ & A	22
16	平成29年度採用スケジュール	23



# 01

# 内閣情報調査室を志望する皆さんへ

## From Director of Cabinet Intelligence

内閣情報官は、内閣法に基づき、「内閣の重要政策に関する情報の収集調査に関する事務」を掌理することとされており、我が国政府の最高意思決定権者である内閣総理大臣を始めとする官邸首脳及び政策部門に対して、その道のプロたちが収集・分析したインテリジェンスを適時に報告するとともに、そのために必要となるインテリジェンス機能の強化を推進し、内閣を直接支える任務を担っている。

我が国の安全保障環境は一段と厳しさを増している。北朝鮮の核・ミサイルをめぐる情勢は緊迫化し、また、東シナ海では中国公船による領海侵入事案が繰り返されている。これらは世界各地の事象と相互に連動しており、一点のみを見ては正確な姿を捉まえることができない。また、拡散する国際テロは、世界中の様々な場所で一生懸命活動する邦人及び我が国の権益に対する看過できない脅威となっている。

そのような厳しい環境に対応するため、近年、我が国の安全保障体制の強化が進められており、インテリジェンス機能の強化はその中の極めて重要な柱となっている。

まず、国家安全保障会議（NSC）が発足し、安全保障法制が整備されたことにより、政策部門の必要とする情報を提供するインテリジェンス部門の重要性が一層明確に認識されることとなった。次に、安全保障上の重要機密情報を適正に管理するための「器」とも言える特定秘密保護法が施行されたことにより、インテリジェンス機関が国内外の機関との連携を深化させることが可能となった。そして、一昨年には、官邸直轄の情報収集部隊である国際テロ情報収集ユニットが発足し、我が国が海外においてfirst handの人的情報収集を進めていく上で大きな一歩となった。

また、平成13年に設置された内閣衛星情報センターにおいて運用する情報収集衛星は、我が国の重要な情報収集手段に成長しており、今後、10機体制の整備等に向けた各種検討に取り組む必要がある。

さらに、サイバー空間での攻撃事案・インテリジェンス活動の脅威も高まっており、我が国としても、カウンター・サイバーインテリジェンス能力を省庁横断的に高めていかなければならない。

現在、内閣情報官として、多忙を極める総理日程の中、概ね週2回の定例報告のほか、必要な場合には臨時の報告を行っている。そのため、当室のスタッフと力をあわせ、常にアンテナを高くし、速やかに情報を収集するとともに、必要な情報が集約されているか、情報の分析は的確か、報告の直前まで日々苦悩しながら準備に注力している。

この仕事は、決して目立つものではない。だが、総理を直接支え、陰ながら我が国の安全の確保に貢献する誇りと使命感を得ることができる職務である。複雑化する脅威を前に、柔軟かつ的確な情報収集・分析を行うためには、画一的ではない多様な知識・経験を持った集団となることが求められている。新たな諸課題にチャレンジする進取の気概を持つ諸君が内閣情報調査室の一員に加わることを願ってやまない。

内閣情報官 北村 滋  
Shigeru Kitamura





# 内閣の総合戦略機能、内閣官房

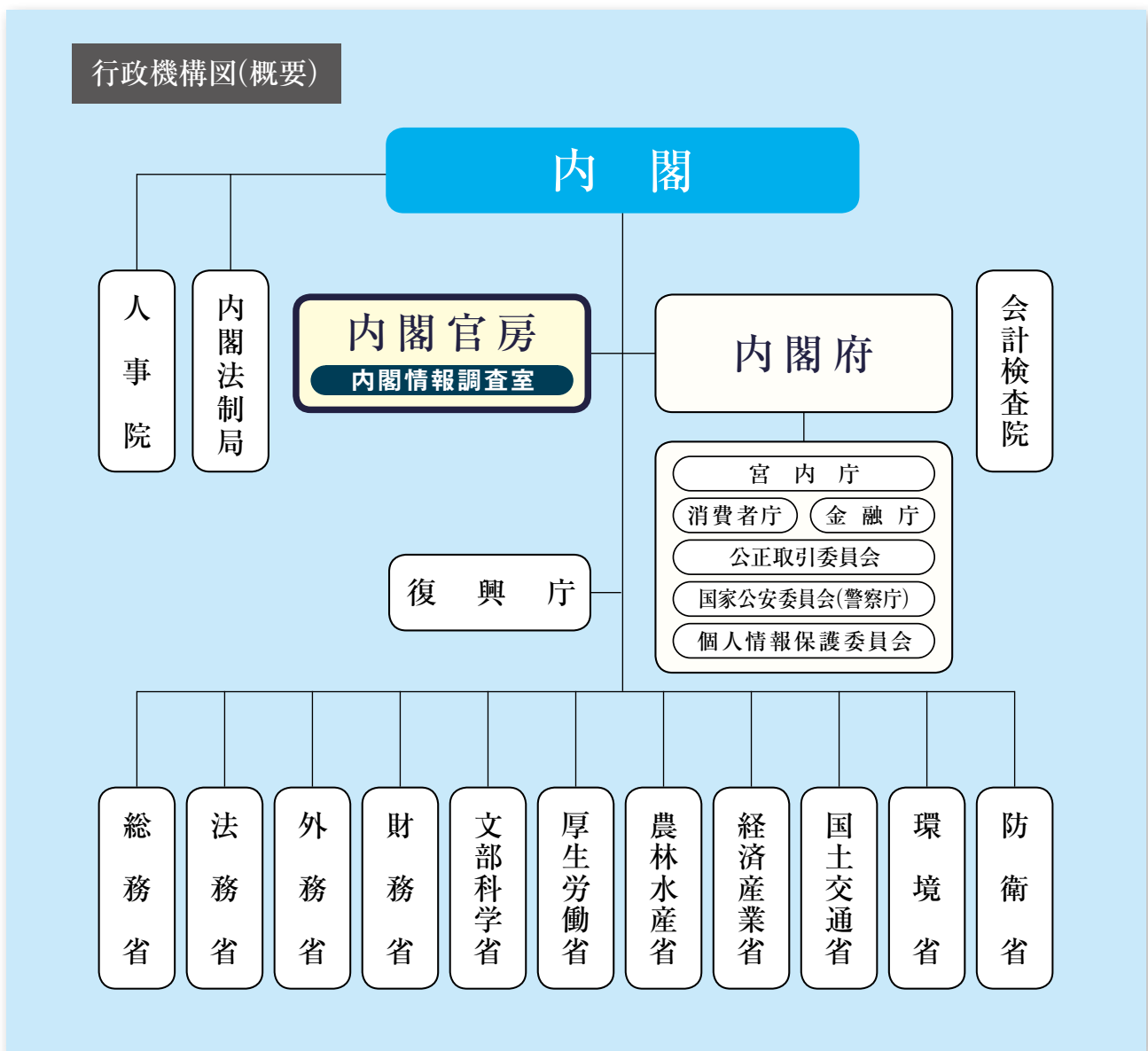
内閣（内閣総理大臣と国務大臣で組織）に置かれる「内閣官房」は、内閣の補助機関であるとともに、**内閣の首長たる内閣総理大臣を直接に補佐・支援する機関**です。

具体的には、

- ・閣議事項の整理その他内閣の庶務や内閣の重要政策に関する基本方針
- ・閣議に係る重要事項等に関する企画、立案、総合調整に関する事務
- ・内閣の重要政策に関する情報の収集調査に関する事務

等をつかさどっています（内閣法第12条）。

端的に言うと、内閣官房は内閣の「総合戦略機能」を担っています。







# 内閣を「情報」で支える内閣情報調査室

内閣官房の職務のうち、内閣情報調査室が担当し、内閣情報官が掌理する主な事務は、「**内閣の重要政策に関する情報の収集及び分析その他の調査に関する事務**」と定められています（内閣官房組織令第4条）。内閣情報調査室の職員は「内閣が適時適切に政策を立案、遂行するために必要な情報」を収集、分析し、内閣を「情報」面から支えています。

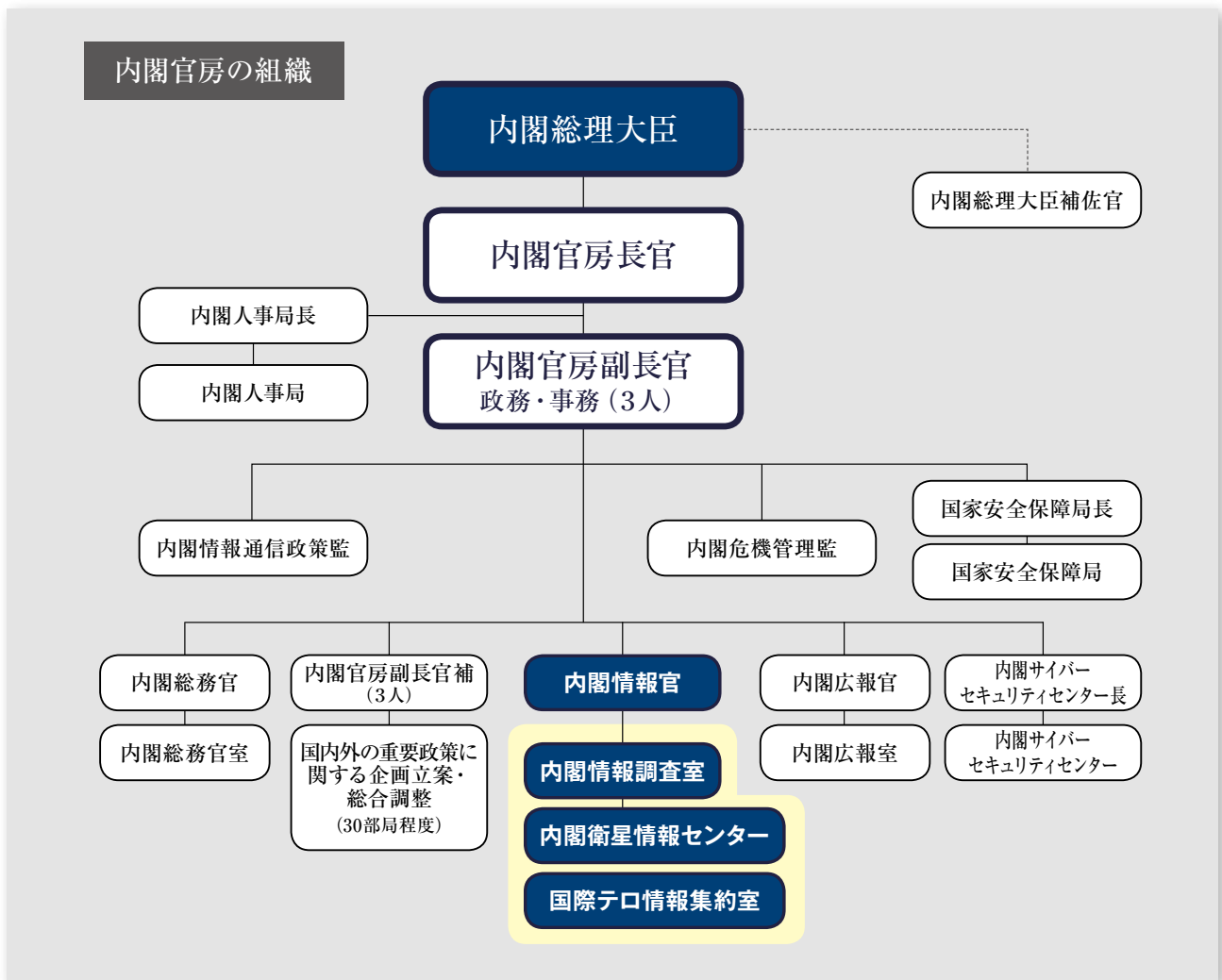
○関係法令 内閣法第12条、第20条 内閣官房組織令第1条、第4条、第4条の3



官邸での会議（内閣広報室提供）



官邸外観（内閣広報室提供）





04

# 内閣情報調査室の歴史と発展

内閣情報調査室は、旧総理大臣官邸の一室からスタートした、コンパクトな組織ですが、業務の重要性が認められ、**年々業務が拡大傾向**にあります。

**昭和27年**

4月9日  
第3次吉田内閣

内閣総理大臣官房調査室  
(総理府の組織として新設)

**昭和32年**

8月1日  
第1次岸内閣

内閣調査室  
(組織変更により内閣官房に)

**昭和61年**

7月1日  
第2次中曽根内閣

合同情報会議を設置  
内閣情報調査室  
(内閣官房の組織再編により名称が変更)

**平成8年**

5月11日  
第1次橋本内閣

内閣情報集約センターを設置  
(緊急な重要情報を24時間体制で収集し、内閣総理大臣等へ報告する)

**平成10年**

10月27日  
12月22日  
小淵内閣

内閣情報会議を設置  
情報収集衛星の導入について閣議決定



旧総理大臣官邸 (現公邸) (内閣広報室提供)

平成27年

12月8日  
第3次安倍内閣

## 国際テロ情報集約室を設置

(国際テロ情報の集約、国際テロ情報の収集調査に関する連絡調整)

平成26年

12月10日  
第2次安倍内閣

## 「特定秘密の保護に関する法律」の施行

(内閣情報調査室が特定秘密の保護に関する企画及び立案並びに総合調整事務を所掌)

平成20年

4月1日  
福田内閣

## カウンタートインテリジェンス・センターを設置

(外国の情報機関による情報収集活動から我が国の重要な情報や職員等を保護)

## 内閣情報分析官を設置

(特定の地域または分野に関する特に高度な分析)

平成13年

4月1日  
第2次森内閣

## 内閣衛星情報センターを設置

(情報収集衛星の開発・運用、画像情報の収集・分析)

平成13年

1月6日  
第2次森内閣

## 内閣情報官を設置

(中央省庁再編に伴い内閣情報調査室長から格上げ)



内閣府本府庁舎

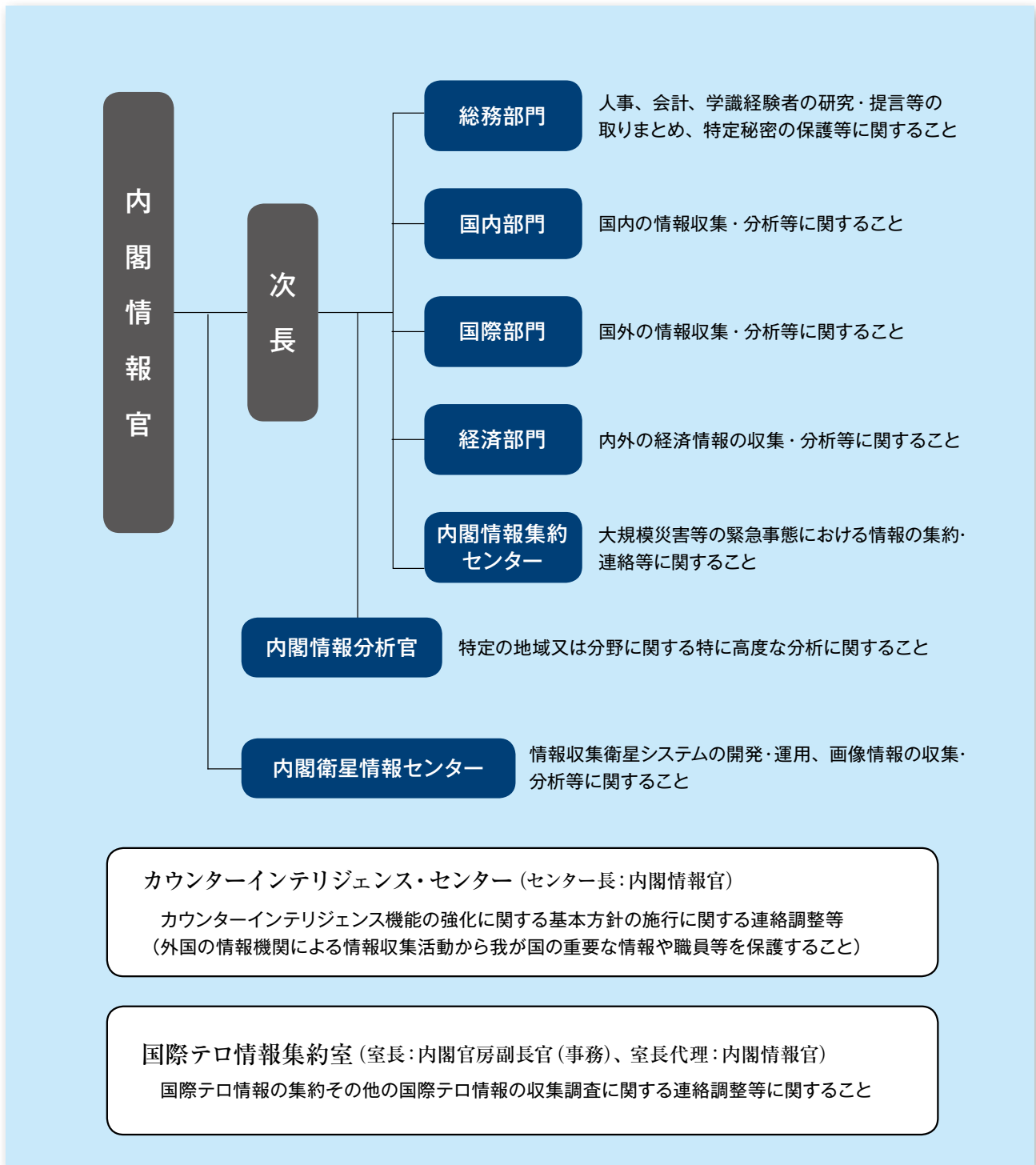




05

# 内閣情報調査室の体制

内閣情報調査室の職員は、タイムリーで質の高い「情報（インテリジェンス）」を集約すべく、直面する重要課題に関して、経緯の調査、現況の把握、今後の動向の分析を多角的な観点から行い、**プロダクト**としての「インテリジェンス」を紡ぎ出す作業をしています。



Cabinet Intelligence and Research Office

# 内閣情報調査室の役割

内閣情報調査室が収集・分析した、内閣の重要政策に関する情報は、内閣情報官を通じて、官邸に報告されます。それらの報告は、官邸の政策決定と遂行を支援するものです。したがって、内閣情報調査室は総理の「目」「耳」としての役割を担っていると言えます。

## ▶情報の収集・集約・分析・評価

官邸直属の情報機関として、官邸の情報関心に基づき、情報収集活動を行っています。

また、情報コミュニティ省庁（内調、警察庁、公安調査庁、外務省、防衛省等）が収集、分析した情報を集約し、内閣の立場から分析、評価を行っています。



(注)「情報コミュニティ」は、従来は、内閣情報調査室、警察庁、公安調査庁、外務省、防衛省の5省庁で構成されていましたが、平成20年3月の閣議決定により拡大されました。(上図参照)

## ▶内閣総理大臣、内閣官房長官等に対する定例報告

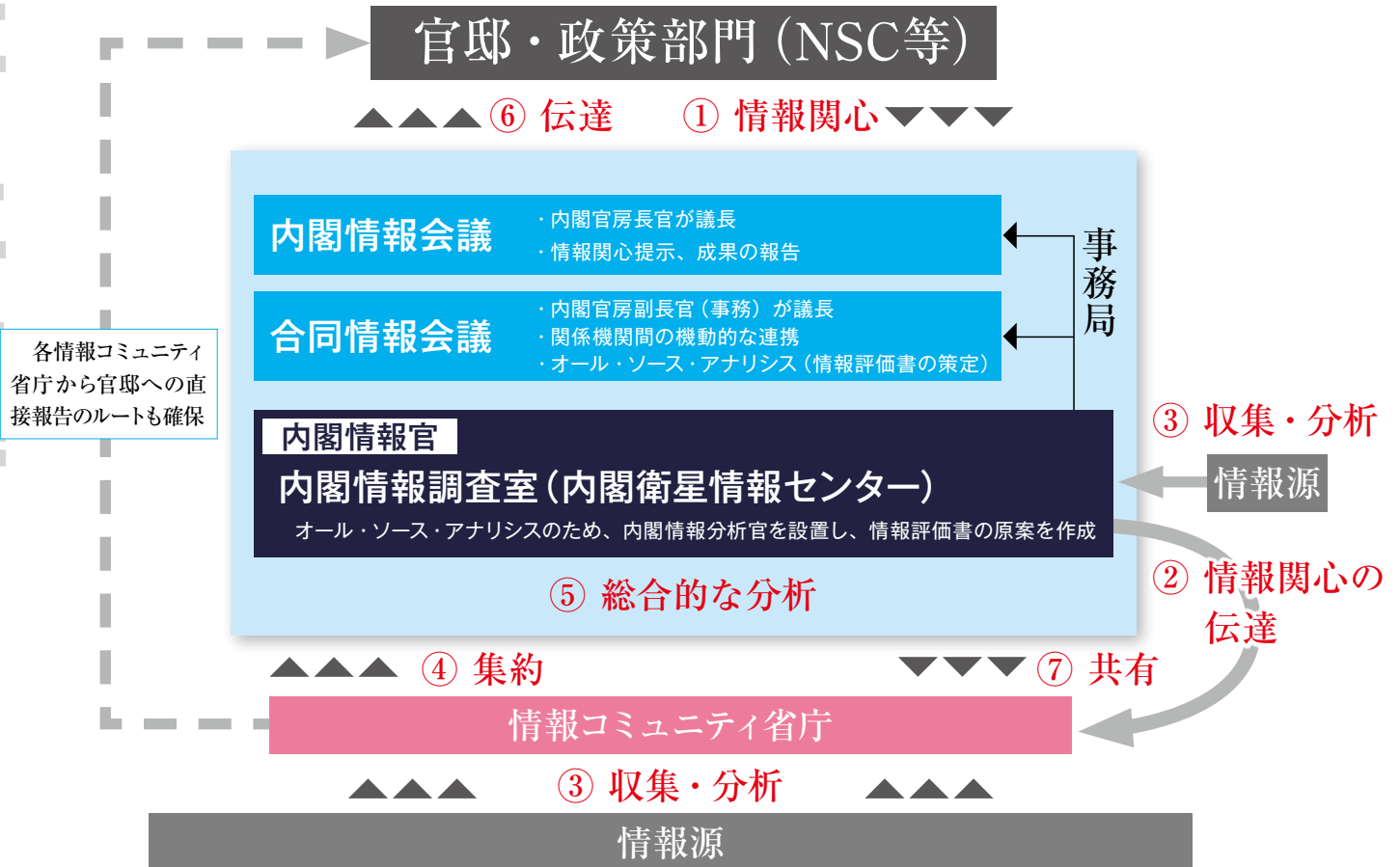
職員による国内外の諸状況に関する情報の収集、集約、分析、評価によって得られた「情報（インテリジェンス）」は、内閣情報官を通じて、毎週定期的に「官邸」に報告されます。特に重要な情報、緊急を要する情報については、随時報告を行っています。

また、内閣情報官が国家安全保障会議（NSC）に出席し、報告を行う等、政策部門への情報提供を行っています。



## ▶情報コミュニティ省庁との連絡・調整

内閣情報調査室は、閣議決定に基づき設置された内閣情報会議、合同情報会議、情報収集衛星推進委員会及び情報収集衛星運営委員会を開催するほか、内閣総理大臣、内閣官房長官、内閣官房副長官等の官邸の政策担当者と、関係省庁との連絡調整を担い、情報コミュニティの要としての役割を果たしています。また、特定秘密の保護に関する企画立案・総合調整業務も行っています。

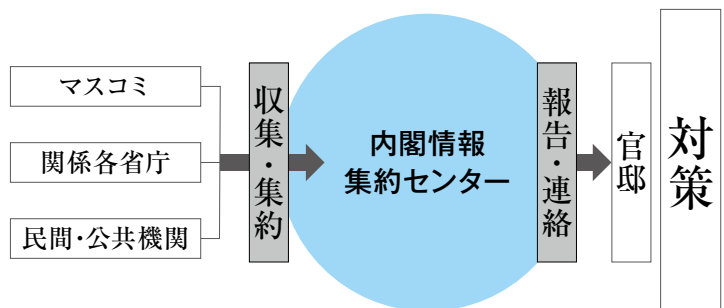


※その他、内閣情報調査室が中心となって、情報コミュニティ内の様々なレベルで随時連絡会議を開催し、いわば「オール・ジャパン」で内閣としての政策判断を支援する体制が構築されています。

## ▶緊急事態の発生時の初動対処

内閣情報調査室の内閣情報集約センターでは、国内外の重要かつ緊急な情報を24時間体制で収集、集約しています。大規模災害や我が国の安全が脅かされる事案等、緊急事態が発生、あるいはそのおそれのある情報が得られた際には、内調に緊急情報が集約され、内調から官邸幹部に速報します。

各省庁との専用回線、内外の通信社との専用回線等のほか、災害発生時には、防衛省、警察庁等のヘリコプターからの映像をリアルタイムで受信するシステム等があり、緊急事態発生時における政府の情報収集、集約の拠点として重要な役割を果たしています。内閣に対策本部が設置された場合には、内閣情報官が関係の会議に出席し、情報面から内閣を支えます。



## ▶国際テロ情報集約室の活動

邦人関連事案に関する国際テロ情報の収集等を抜本的に強化するため、平成27年12月、「国際テロ情報収集・集約幹事会」、「国際テロ情報集約室」、「国際テロ情報収集ユニット」が新設されました。このうち、「国際テロ情報集約室」は、内閣官房副長官（事務）を室長、内閣情報官を室長代理とするほか、内閣情報調査室の職員により構成されています。

「国際テロ情報集約室」は、官邸幹部や関係省庁の情報関心の取りまとめ等を行っており、これに基づいて、「国際テロ情報収集ユニット」は、いわば官邸の直轄部隊として、情報収集を行っています。

### 国際テロ情報収集・集約幹事会

国際テロに関する情報及び情報関心の共有、焦点や優先度について集約。

### 内閣官房 国際テロ情報集約室

幹事会の事務局として、国際テロ情報の集約その他の国際テロ情報の収集調査に関する連絡調整を実施。

### 国際テロ情報収集ユニット

4名の幹部級職員の下、東南アジア、南アジア、中東、北・西アフリカの4地域で国際テロ情報を収集。

- ▶ 議長は、内閣官房副長官（事務）。
- ▶ 構成員には、内閣情報官のほか、計6名の内調幹部職員が含まれる。

- ▶ 室長は、内閣官房副長官（事務）。
- ▶ 室長代理は、内閣情報官。
- ▶ 室員は、関係省庁幹部級職員及び内調職員により構成。

- ▶ 国際テロ情報収集ユニット員は、すべて内調職員の身分も保有。

## Column: 職員の声



平成22年採用（男性）

**新米パパ兼フレッシュマンという二足のわらじで内調生活をスタート。衛星画像分析や米国での調査研究を経験、本年度から在外公館勤務に挑戦する若手情報マン**

本命の他省庁訪問のための肩慣らし程度に訪れた内調の官庁訪問。私の心は躍っていた。専門用語を羅列するだけのエセ専門家ではなく、思慮の深さと知識の広さを感じさせるような職員が多く、職員の知的水準の高さをひしひしと感じさせられたのだ。好奇心旺盛な私としては、こうした人達と仕事をすればきっと刺激的な日々を過ごすことができるのではないか、コンパクトな組織という特性から、若いうちからインテリジェンス業務に携わる可能性が高いのではないか、と期待が高まった。

採用されて約7年が過ぎたが、自身の期待は裏切られてはいない。1年8ヶ月、米国にて、特定のテーマに関する長期的な調査研究を行ってきた。その方法はオープンソースにとどまらず、セミナーへの参加や米国の政府職員や企業からの聴取など多岐にわたる。半ば強引に、電話をかけてインタビューをしたこともあったが、すぐに切られてしまうことも。苦勞も絶えなかったが、日本では得られない知見や人脈を得ることができた。

近年、インテリジェンスへのニーズも高まり、わが国における当室の役割は拡大している。好奇心旺盛でインテリジェンスの世界にどっぷりと浸かりたい人へ、「40年近くを過ごす職場なのだから、刺激的で面白い職場であることに越したことはないだろう」と、私は伝えたい。





# 内閣衛星情報センター

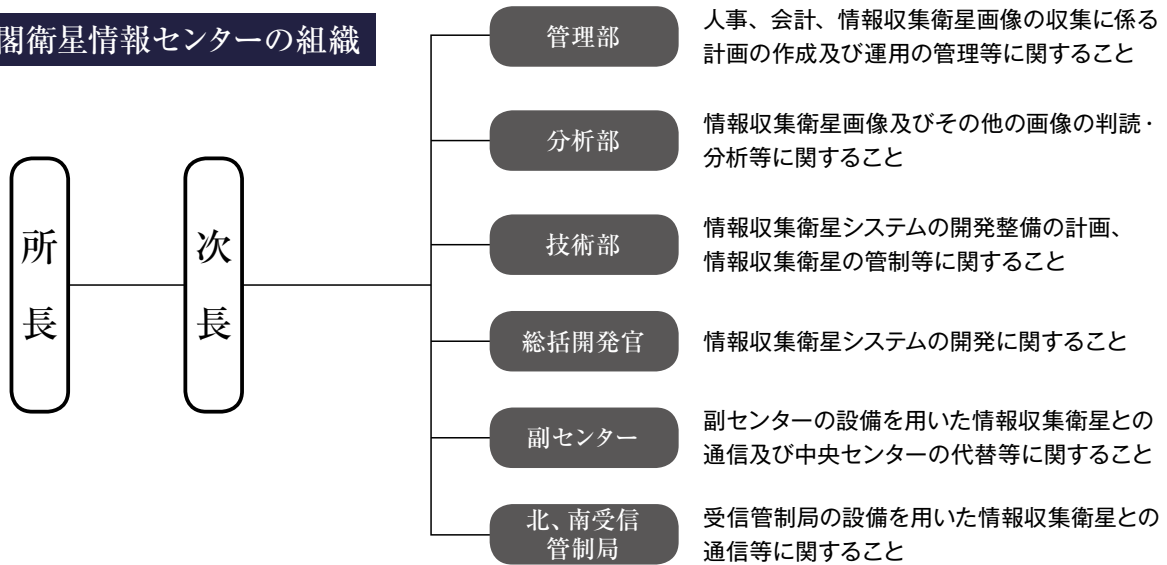
## 07

## ～情報収集衛星の開発・運用～

内閣衛星情報センターは、外交・防衛等の安全保障や大規模災害への対応等の危機管理のために必要な画像情報の収集を行うため、**情報収集衛星の開発・運用**を行っています。

情報収集衛星によって得られた画像情報は、内閣総理大臣、内閣官房長官への報告や、情報コミュニティ(利用省庁)への報告書の作成・配付等、政府の重要政策の決定や情勢判断に際し活用されています。

### 内閣衛星情報センターの組織



## ▶情報収集衛星 (Information Gathering Satellite) について

### ● 光学衛星とレーダ衛星

詳細な分析に適する光学衛星と、夜間や悪天候時でも撮像可能なレーダ衛星を運用しています。

### ● 4機体制から10機体制の確立を目指して

これまで光学衛星2機、レーダ衛星2機の計4機体制を確立しました。更なる情報収集体制の強化に向けて、10機体制の確立を目標に掲げ、情報収集衛星の開発に取り組んでいます。

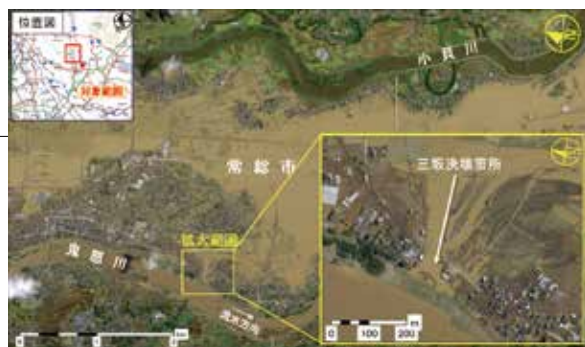
(情報収集衛星画像の活用例)

我が国の安全保障や重要政策の決定に資する他、以下のような活用もされています。



平成27年、台風第18号による大雨等に係る茨城県常総市の被災状況について、公表しました。

平成25年、フィリピン台風被災状況推定地図(タクロバン周辺)を作成し、公表しました。





# 研究・開発

# 最先端衛星の研究・開発の推進



- 課題例**
- ① 衛星が撮像対象の上空を通過するのは瞬時的
  - ② 1シーンで撮れる範囲は限定的
  - ③ 情報を要求してからデータを得るまでに時間を要する



- 研究開発の主な取組**
- ① 情報の量の増加
  - ② 情報の質の向上
  - ③ 即時性の向上

## ① 計画の立案

要求に基づき作成した撮像計画に従って、衛星の最適な管制計画を立案し、コマンドを作成します。



(内閣広報室提供)

**撮像要求**



## ② 衛星との通信

衛星管制のためのコマンド送信、撮像データの受信を行います。



## 官邸・利用省庁

官邸・利用省庁  
(内閣官房、警察庁、消防庁、公安調査庁、外務省、経済産業省、国土地理院、海上保安庁、防衛省)

# 運用

## ⑥ 報告書の配付

撮像要求に応じて、報告書を利用省庁に配付します。

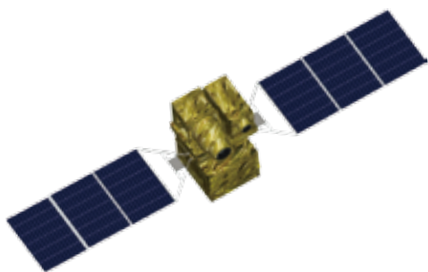
## ③ 画像の処理



## ⑤ 報告書の作成

## ④ 画像の判読・分析

- ・ 専門的訓練を受けた分析官が、処理された画像の判読・分析を行います。
- ・ 判読・分析した結果は、報告書としてまとめます。



# 衛星画像を基にした 高度な情報分析

# 判読・分析



08

# 内調職員の座談会

2017年3月某日。昨年に引き続き、内閣情報調査室に勤務する4名の職員が集結！今だからこそ話せる新人時代のあんなことやこんなことを聞いてみました。



—— 昨年ご好評をいただいた座談会、浮かれた調子で今年も開催させていただきます。

さて、内調といえば、アクション映画や刑事映画のイメージを思い浮かべるといってよく聞きますが、実際に働いてみると、意外と「日常生活と密接な仕事」という印象を受けます。



**Dさん** 唐突にきたね(笑)。まず、このパンフレットを手にしてしている皆さんが視聴しているであろうテレビで放送されるニュースの多くが、内調の仕事につながっていると言えると思うよ。国内、国際、経済のみならず、災害や事故、環境問題、時事問題まで、内調の守備範囲は広いよね。



**Cさん** 私が担当している業務は、マスコミや政局に詳しい関係者と直接会い情報収集をするのがメイン。つまり、「人」相手の仕事です。様々なタイプの人と出会いますが、皆さんの周りにも様々なタイプの人っていて、その様々なタイプの人とお付き合いをしているでしょう？端的に言えば、それと同じです。



**Bさん** さらに、内調には、外交や安全保障、経済、通商等、様々なバックグラウンドを有する他省庁からの出向者が多く、複数の異文化が混在し、共存しているね。



**Aさん** 特定の業務や、特定の年代でしか知り合えない職員も多いので、積極的に人とコミュニケーションをとると、自分の知見・視野を広げられますね！その時に築いた関係が後に生きてくることもしばしば。



—— 内調での新人時代はどうでしたか？



**Dさん** 僕なんて、採用日翌日から毎朝3:50に目覚ましをセットして、6:00出勤後、新聞等の公開情報の整理をしていて、当時は「なんて職場だ！」という思いで一杯だった。それでも、採用直後から公開情報をシャワーのように浴びる環境にいたことは、情報のトリアージ能力を高めるとも貴重な機会だったと思うよ。



**Bさん** 確かに、そうですね。僕が新人時代に担当していた通信社ニュースの緊要度ごとの仕分け業務では、官邸にとって、内調にとってどのような情報が「今」重要であるのかを察知することが最も大切になる。その時に、情報の「センス」のようなものが身についた気がするな。



**Cさん** その「センス」というものが、なかなか難しいよね。情報を扱う仕事は、正直「経験が物をいう」仕事でもある。まして、新人時代なんて、周りは情報のプロばかりだったから、毎日が緊張と勉強の連続だったな。当時付き合っていた現在の妻に「あなた顔面蒼白よ」と何回言われたことか(笑)。一方で、「情報」を仕事にすると



**Aさん**  
平成20年採用  
女性

採用後、調整業務・国内部門・国際部門を渡り歩き、内閣情報分析官室での勤務も経験。春からは官民交流にチャレンジ中の若手筆頭株。



**Bさん**  
平成7年採用  
男性

他省庁への出向、在外研究機関勤務を経て、国際部門での米国に関する情報分析に熟を注ぐ中堅職員。



**Cさん**  
平成5年採用  
男性

永田町を縦横無尽にかけ回る国内部門のエース。温和な性格から周囲からの信頼が厚く、幅広い人脈を持つ。



**Dさん**  
平成3年採用  
男性

国内部門勤務を経て、現在は集約センターで、情報収集を担当する大ベテラン職員。



インタビュー・構成  
平成27年採用  
女性

へっぴこ人事担当。先輩たちに喝を入れられ、なんとか仕事をやっている。

いうことは、決して楽ではないけれど、努力さえすれば越えられない壁ではないことも事実だよ。Aさんはどう？



**Aさん** 私は、国家安全保障局設立の際に、内調の対応方針を調整する業務に携わっていました。政策省庁と情報機関との関係や情報機関の中で内調の果たすべき役割・立ち位置を把握し、内調から国家安全保障局に情報を提供し、官邸と国家安全保障局の連携の下、国の方針が決定されていくというダイナミックな流れを体感してきました。まだ新人でしたが、そこで学んだ相手方への「情報」の分かりやすい伝え方、相手方の説得方法が、現在の分析業務、ポイントを押さえた資料作りに生かされていると思っています。



**Dさん** 内調に限らず、ほとんどの仕事は対人関係ありきだと思うけど、相手をよく知り、とにかく誠意をもって応対すること、これが対人関係構築の基本だね。調整業務も情報収集・分析業務も「人を意識する」基本のキは変わらないね。



—— 内調の特徴として「官邸との近さ」がありますが、どういったときにそれを感じますか？



**Bさん** 僕は米国大統領選挙以降、かなりの頻度で、新政権について分析したプロダクトを作成し、提出しています。官邸で高い評価を得られたと耳にしたときは、国の役に立った！とこの歳になっても嬉しくなるね。



**Aさん** 私は、自分が携わった業務が新聞やテレビニュースで報道されたり、毎日官邸に足を運んだり、意識的にも物理的にも、日本の「中心」と自分の距離が急に近くなったときかな。恐怖を感じたほどです(笑)



**Cさん** 内調はかなりコンパクトな組織だけど、霞ヶ関の中では異色の存在感を放っているね。



—— 最後にパンフレットを手に入れている皆さんにメッセージをお願いします。



**Cさん** 皆さんは「就職」を目の前に、10年後、20年度を考える余裕などないかもしれませんが、だからこそ、20年以上内調で勤務してきた私は言いたい！内調の仕事は、20年後も誇りをもってこの仕事を選んでよかったと胸を張って言えるものです。だから、若手には是非のびのびと仕事をしてもらいたいな。



**Dさん** 国家公務員が「国」のために働くというのは、ごく当たり前のことだけれど、内調は、官邸の目の前の建物の中で、官邸を向いて仕事をしている、否応なく「国」を意識せざるを得ない状況に置かれています。日本という「国」を常に意識して仕事ができるということは、とても貴重なことだと伝えたいね。こんな職場なかなか無いよ。



—— ありがとうございました。今日は内調の仕事の醍醐味、仕事に取り組む上での姿勢について、たっぷりとお伺いできました。私も初心を忘れず、精進します。まだまだお話ししたいところですが、続きは採用説明会でお願いします！





09

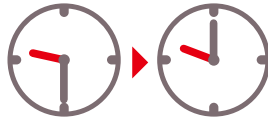
# 内調職員の日



平成23年採用 男性

着実に情報分析の道を進むこつこつ型、若手職員。外務省に出向予定。

採用後～ 総務部門  
平成26年4月～ 総務部門(会計担当)  
平成27年10月～ 国際部門(地域担当)

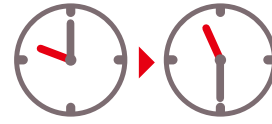


9:30~10:00



### メールチェック、班内で情報共有

まず自分の所属する国際部門の地域班ごとに情報共有、今後の予定の確認を行います。国際部門の地域別の情報収集、分析はチーム体制で行うことがほとんどです。今後予定されている総理の海外訪問や外国政府関係者の来日、国際会議等のイベントスケジュールも見逃すことがないように共有します。



10:00~11:30



### メディアチェック

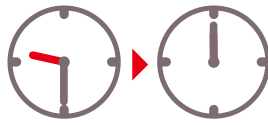
新聞やニュースサイト、担当地域の主要紙や専門誌等で担当地域・分野の情報を収集します。玉石混交ではありますが、最近ではネットメディア、SNSが非常に重要です。情報取得の効率化のため、国内外の有識者のtwitterや政府要人のFacebookは定期的にフォローしています。



平成元年採用 男性

国際系ベテラン職員。現在は内閣情報分析官を補佐する立場。

採用後～ 国際部門  
平成3年4月～ 国内部門  
平成4年4月～ 外務省へ出向  
平成7年4月～ 在外公館で勤務  
平成10年5月～ 国際部門  
平成12年10月～ 衛星センター  
平成19年4月～ 国際部門  
平成22年10月～ 内閣情報分析官室

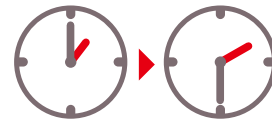


9:30~12:00



### 海外関連サイトの確認・記事の翻訳

会議の予定や内閣情報官へのブリーフィングの日程を確認した後、昨日の退庁後以降のニュースで担当国関連記事をチェックします。また、毎日配信される担当国のモニタリング情報の関連記事、インターネットで海外関連サイトと記事や論文を確認します。英語の記事や論文については翻訳し、プロダクトの材料にすることもあります。



13:00~14:30



### 各省庁からの情報提供の確認

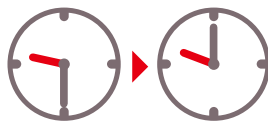
関係各省庁から届く情報評価書作成のための情報を、内閣情報分析官と共有します。情報評価書については、2~3日かけて案文を読み込み、情報内容の過不足、誤字脱字の確認作業を行います。研究会に出席し、定期会議の資料作成に使う情報を収集することもあります。



平成28年採用 男性

内閣衛星情報センター技術部に配属されて1年。地道に業務をこなす若手職員。

採用後～ 内閣衛星情報センター技術部

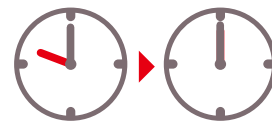


9:30~10:00



### 今日の予定の整理

私は「品質管理業務」「無線局管理業務」「教育訓練業務」の3つを担当しています。週初めには、1週間の詳細な業務計画と今後1か月の大まかな業務計画を上司とともに整理しています。



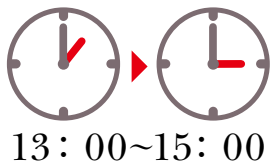
10:00~12:00



### 委託業者との打ち合わせ (品質管理業務)

内閣衛星情報センターは衛星の管制・画像判読分析等の遂行のため、独自の計算機やソフトウェアを有しています。これらの調達や維持管理には、委託業者との密接な連携が不可欠です。打ち合わせでは情報系の専門用語が飛び交うため、初めてみる単語は必ず調べて、議題についていけるように必死です。

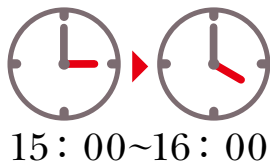
内調職員は、実際にどのように働いているの？  
そんな疑問を解消すべく、内調職員3名の一日を追いました。



13:00~15:00

### セミナー・講演会へ出席

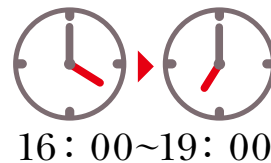
民間シンクタンクや大学等で開催されている有識者のセミナーや講演会に出席します。日頃のデスクワークでは網羅できない生の情報や、有識者独自の見解に接することは、自分の視野を広げ、作成するプロダクトの質の向上につながる貴重な経験です。他省庁との意見交換会で、同地域・分野担当の職員と情報共有を図ることもあります。



15:00~16:00

### 資料の整理

来月には、外国政府関係者が来日するため、急な資料要求があることが予想されます。そのため、今まで集めてきた関連情報を整理して簡単な「まとめメモ」を作成します。緊急の時にこそ、日頃から収集・分析していた「今後必要となるであろう情報」の蓄積が役立ちます。これが、総理の目に留まるプロダクトの原石です。

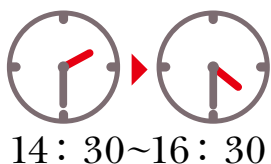


16:00~19:00

### プロダクトの作成

来週初頭には、官邸への定期報告があります。この定期報告のためのプロダクトの作成が国際部門では最も重要です。報告の要点にズレがないか、過不足はないかに気を配り、総理に短時間で的確に伝わるよう、見易さも考慮して作成します。

退行後、職場の先輩・後輩や友人と飲みに行くことも!



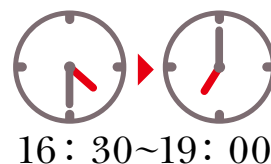
14:30~16:30

### 情報評価書の参考資料の作成

情報評価書には、複雑な統計資料を参考資料として添付することがあります。例えば、毎月更新される貿易統計データや担当地域指導者の動向等、常にモニタリングをして、プロダクトに反映・更新させていきます。

普段はこのように緻密な作業を繰り返し、合同情報会議に諮られる情報評価書案を仕上げていくわけですが、突発的事態への対応を求められることがあります。

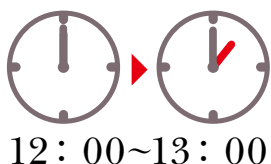
かつて、担当地域指導者の死去・交代など世界的に注目される重要事象が起きた際には、内心の動揺・緊張を覚えつつ、上司とともに関係情報の集約・分析作業に追われましたが、事象発生後1週間以内に、現状を分析・評価した情報評価書を官邸に届けることができたときに感じた達成感は今でも忘れられません。



16:30~19:00

### 定期会議への出席

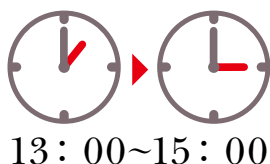
この時間帯になると、欧米が朝になると、海外の新聞やニュースをもう一度確認します。毎週金曜日には、1週間の締めくくりとして、担当国や関連国の動向に関する検討会議があります。いつ何が起こるか分からない、それが内調の醍醐味でもあります。緊急事案にいつでも対応できるよう、情報の共有はかかせません。



12:00~13:00

### ランチタイム

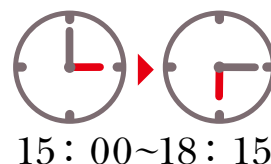
内閣衛星情報センターには職員食堂がありませんが、センターの外には様々なレストランやカフェがあり、メニューに飽きることはありません(笑)。今日は先輩におすすめの中華料理屋を紹介していただきました。午後も乗り越えられそうな気がします。



13:00~15:00

### 技術系職員を対象とした研修(教育訓練業務)

内閣衛星情報センターには、他省庁からの出向者が数多く在籍しています。そして、内閣衛星情報センターの業務は他省庁と大きく異なるため、宇宙や衛星、画像処理等に関する研修が必要になってきます。これらの研修は宇宙事業に関する豊富な知識・技術を持つ委託業者と協力して行っています。



15:00~18:15

### 総務省との打ち合わせ(無線局管理業務)

衛星の管制を行うためには、地上のアンテナと衛星を無線通信でつなぐ必要があります。内閣衛星情報センターの無線通信業務がほかの無線通信業務と混同しないためにも、無線通信を司る総務省との連携は不可欠です。内閣衛星情報センターの無線通信業務を保護しつつほかの無線通信業務と周波数を共用できるよう調整を重ねています。



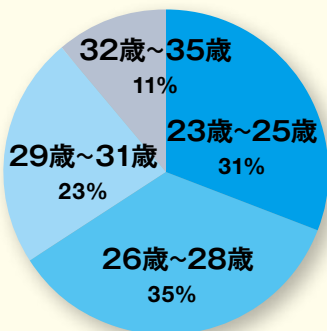


10

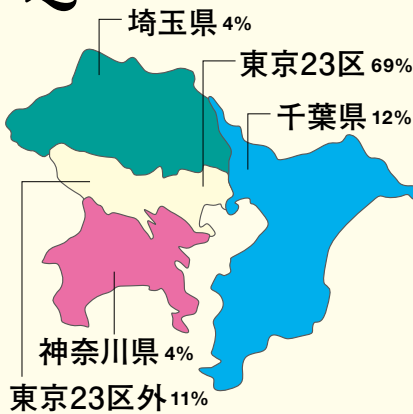
# 内調若手職員（係員）の働き方

内閣情報調査室では、多くの若手職員が第一線で活躍しています。若手職員26名の働き方や想いから、皆さんが内調で働いている姿を想像してみてください。

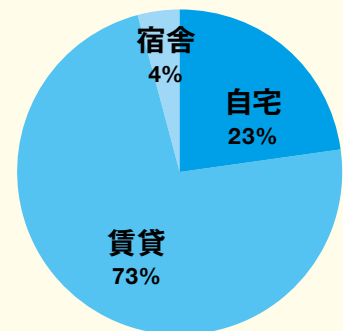
Q 若手職員の年齢構成は？



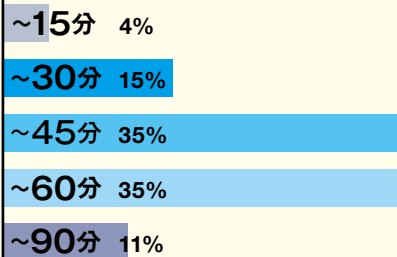
Q どこから通ってる？



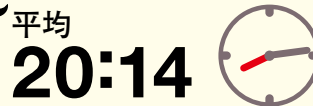
Q 自宅？賃貸？宿舍？



Q 通勤時間はどれくらい？



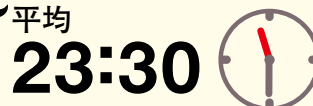
Q 通常期の退庁時間



Q 一日の睡眠時間

平均 **5.34時間**

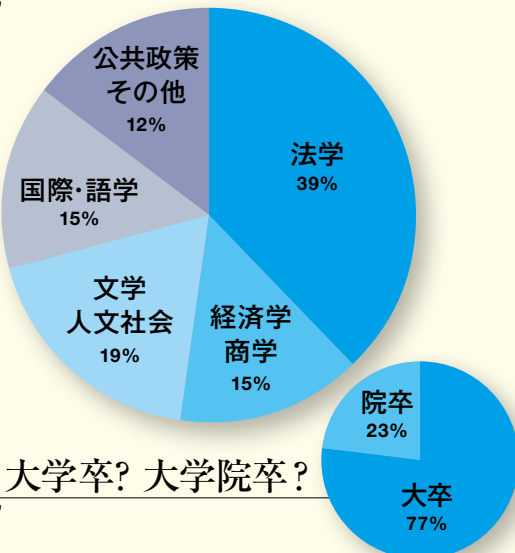
Q 繁忙期の退庁時間



Q 有休取得数

平均 **11.38日**

Q 大学(院)での専攻は？



Q どんな新人職員と働きたい？

- 1 信念を持っている人
- 2 向上心が強く、何事にも積極的に挑戦できる人
- 3 明るく素直な人
- 4 好奇心を持ち続けられる人
- 5 物事を多角的に捉えることができる人

<番外編>

進取の気取りが旺盛な人／一芸に秀でた人  
 気力・体力がみなぎっている人／夜遊びに付き合ってくれる人  
 ユーモアセンスのある人

## Q 自分自身の成長を感じたエピソードは？

### 1 自分の判断で業務をこなせた

→上司から指示されたことだけでなく、自分で仕事の方向性を決め、業務に取り組むことができた／自分に合う仕事のやり方を見つけた

### 2 スキルアップを実感した

→海外で、数多くのセミナーに出席し、著名な専門家にインタビューを行い、自分の裁量で、多くの情報収集、分析、報告書作成の作業を行い、情報マンとしてのスキルを磨くことができた／資料(文章)作成能力・分析能力が向上し、スピーディーに仕事ができるようになった。／タイピングスピードがあがった

### 3 余裕がでてきた・動じなくなった

→自身の担当外の業務にも挑戦できるようになったと同時に、気持ちの切り替えが早くなった／将来起こることを想定し、逆算的に仕事に取り組むことが出来るようになった

<番外編>

尊敬する上司から仕事ぶりを評価された／毎年、身長が1mm伸びている

### 4 自作の資料が使われた

→様々な広報資料等の企画立案に携わり、その資料が今も広く流布されている／官邸中枢にダイレクトに関与する仕事に携わったときの成果が国政に寄与していると感じた

### 5 視点の変化

→「あるべきものを見つけようとする」のではなく「あるがままに見ようとする」姿勢が身についた／どの部署の担当となっても、そこで自分独自の楽しさを見つけられるようになった

### 6 人間関係の変化

→採用後早々に外向し、他省庁の優秀な職員の方と切磋琢磨して働くことができたことで、いまだに連絡を取り合える人間関係を醸成した／道行く人にさりげなく声かけすることを意識し始めた

## Q 今後どのような業務にチャレンジしたい？

1 国別・分野ごとの情報収集・分析 → 米国や中国の政治情勢、サイバーや国際テロ、民族・移民問題、国政に関すること。

2 在外公館勤務・他省庁への出向 → 広い視野を持ちたい、国内での情報分析に活かせる能力を身につけたいとの声が多数。

3 人的情報収集 → 高度な分析能力を身につけ、有識者・専門家との関わりを活かして情報に携わりたいとの声も。

<番外編>

誰もやりたがらない仕事を率先してやりたい／今の仕事を自分のものになるまで頑張りたい

## Q 内調をズバリ一言で言うと？

成長産業の牽引役  
ベンチャー企業  
少数精鋭・常に変化

→時代のニーズに合わせて、当室の所掌範囲が拡大し成長している／出向者を含めると、他省庁と比べて数少ない人数で仕事をしている。

日々精進・自分次第  
主体性が求められる

→若手でもやる気次第で様々なことにチャレンジできる職場であり、一人一人の仕事の責任が大きく、鍛えられる。

多種多様  
人種のるつぼ  
メルティングポット

→職員は多彩なバックグラウンドと専門性を有している／多様な価値観にさらされる中で、自身の働き方、方向性、考え方が相対化され、絶えず考えることが求められる。

個性的・公務員らしくない

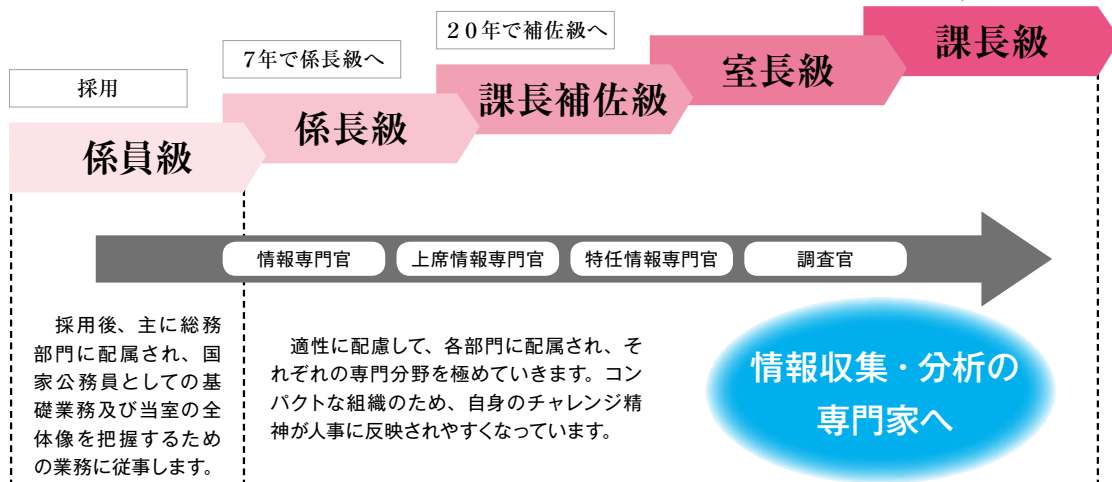
→独特な文化を持っており、組織も職員も固有の進化を遂げている。



11

# 内調職員のキャリアステップ

内閣情報調査室は、「情報（インテリジェンス）」という一般的な「行政」とは異なる分野を主力としています。そのため、課係制をとる他行政官庁とは異なり、収集、分析した情報を迅速に伝達するという情報業務の特性にかなったフラットで柔軟な職制を採っています。



## ○出向や在外勤務をする機会について

専門性を強化し、行政実務経験を積むため、内調職員には、情報コミュニティ省庁（警察庁、公安調査庁、外務省、防衛省）や内閣府（国会勤務等）等への出向の機会を付与しています。また、内閣情報調査室に属している内閣衛星情報センターで、管理業務や衛星画像の分析業務にチャレンジできる機会も得られます。

また、外務省に出向すると、各国の大使館で勤務することがあります。在外勤務は、国外で多様な人々と触れ合う貴重な機会であり、当室職員のキャリアを形成していく上で非常に有益であるため、職員を積極的に派遣しています。



## Column: 職員の声

平成10年採用（男性）

### 出向経験や在外公館勤務経験に富む、国際のプロフェッショナル

#### career step

- 平成10年4月～ 国内部門に勤務。主に公開情報の収集・分析を担当。
- 平成12年4月～ 内閣情報集約センターに勤務。危機管理業務を担当
- 平成14年9月～ 総務部門に勤務。主に国会連絡業務、会議事務局を担当。
- 平成17年9月～ 内閣府へ出向。国会連絡業務、党部会対応を担当。
- 平成19年9月～ 国際部門に勤務。
- 平成20年4月～ 外務省へ出向。在外公館で治安やテロ情勢の情報収集を担当。
- 平成23年10月～ 国際部門に勤務。
- 平成25年4月～現在 外務省へ再び出向。外務省本省で2年勤務後、在外公館で邦人援護、外交の業務を担当。

— 今まで最もやりがいを感じた仕事は何ですか？

在外公館勤務は、自分が組織の代表として情報収集のみならず、先方機関との関係強化や出張者の出張アレンジ等、目に見える形で組織に貢献できていることを実感でき、最もやりがいがありましたね。外国語にまみれた、慣れない土地での生活は、山あり谷ありでしたが、実際に現地に行かなければ分からない肌感覚を得ることができ、貴重な経験でした。

— 国家公務員を目指す人へメッセージをお願いします！

内調では、首相官邸や国会といったいわば「日本の中心」から、情報収集の最前線である在外公館まで、バラエティに富んだ「舞台」で、日本という国が動いているのを感じながら仕事ができます。実際のところ、もうじき入室20年になる私でも、未だに新たな挑戦や発見の機会に出くわし、全く飽きません。公務員という仕事に安定を求めている方には不向きな職場かもしれませんが、何にでも興味を持ち、変化を厭わない、チャレンジ精神に富んだ方にとっては、公務員人生を豊かにするにもってこいの職場ですよ！



## ○スキルアップ支援について

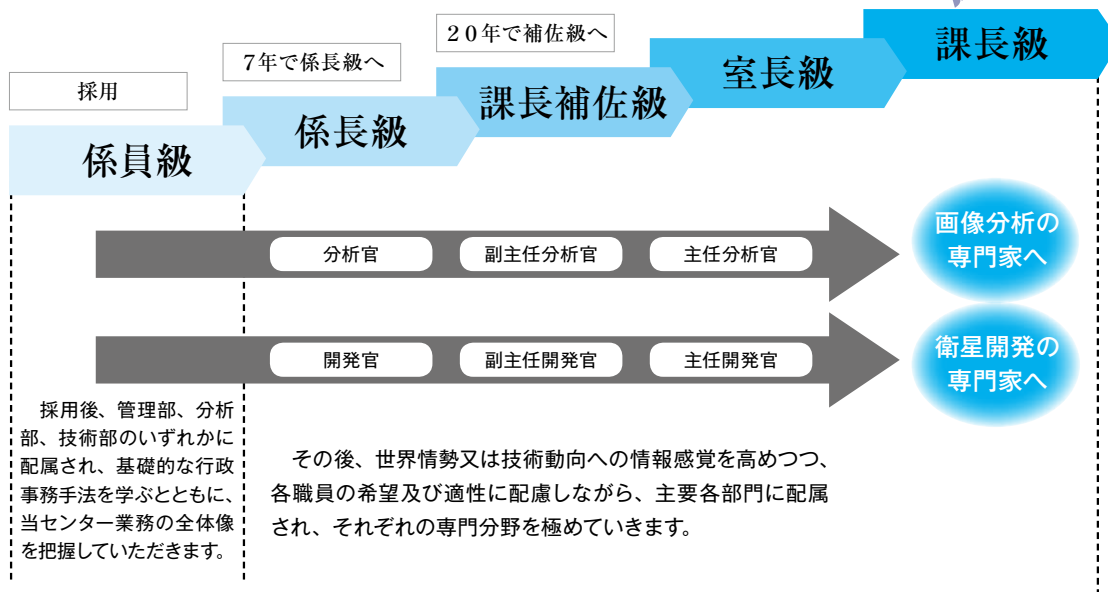
在外勤務に挑戦する職員には、一定程度以上の語学力が必須です。内閣情報調査室では、語学力向上のための支援（主に民間語学学校への通学補助）を行い、職員がスキルアップできる環境を整えています。また、人事院の研修制度（行政官国内研究員、行政官短期在外研究員等）を活用して、「専門性」に磨きをかける機会もあります。内閣情報調査室の「情報」に関する業務には、経験豊かな上司や先輩から、日々の業務を通じて仕事のやり方を学ぶ「OJT」の姿勢も欠かせません。



# 12

# 内閣衛星情報センター職員の キャリアステップ

内閣衛星情報センターでは、「情報収集衛星の開発・運用」や「衛星画像情報の判読・分析」をはじめとした情報収集衛星に関連した様々な業務に携わっていただきます。幅広い業務経験を通じ、最新の世界情勢や技術動向に対する知見、更にはグローバルな視点を身につけつつ業務に必要な専門性を高め、将来は政府の重要な情報を収集する総理の目や耳として活躍いただきます。



## Column: 職員の声

平成22年採用（女性）

**分析、技術開発、管理業務を幅広く経験、現在は画像情報分析の最前線で奮闘する理系女性職員**

### career step

平成22年4月～ 管理部に勤務。企画調整、国会対応等の対外窓口を担当。

平成23年4月～ 技術部に勤務。衛星技術に関する調査研究、情報収集衛星の検討及び画像処理システムの開発を担当。

平成26年5月～ 分析部に勤務。衛星画像の判読、分析を担当。

— 今まで最もやりがいを感じた仕事は何ですか？

現在、分析部に担当している業務は、情勢に応じて速やかに画像情報を判読・分析し報告するといった緊張感のある業務ですが、とてもやりがいを感じています。

画像分析業務は、ただ衛星画像を見て判読するだけでなく、情勢把握、現地調査や文献等から得られた知見の活用も重要となります。日々試行錯誤の繰り返しですが、地道な検証を重ねて結論を導いていく作業はとても面白く、成果が得られた時の達成感が大きい仕事です。

— 国家公務員を目指す人へメッセージをお願いします。

衛星の運用や画像分析、最新技術の調査など、当センターならではの仕事は、どれも他の職場では経験できません。初めは専門知識などなくても、日々の仕事に丁寧に取り組んでいけば、いつの日かあなたも、この分野のプロフェッショナルになれるはずです。



13

# 業務に関するQ&A

## Q 日常的にはどのような仕事をするの？

**A** 直接人と会い、情報収集・意見交換を行う等、フットワークを生かした「外回り」の他、新聞や雑誌、専門誌、通信社のニュース、テレビ、インターネット等のメディアから、膨大な公開情報を整理し、的確な分析を加えていく業務も行っています。また、民間シンクタンクや学者・研究者と積極的に交流し、内外の最新情報や社会現象について意見交換を行います。分かりやすく言えば、内調職員は「新聞記者」のように仕事をします。新聞記者が一般の人々を「読者」として常に意識しながら、記事のネタを探すとすれば、内調職員は総理や官房長官を「読者」として意識しながら、国内外の情報収集・分析を行っていきます。



## Q 他の情報収集を行っている機関との違いは何ですか？

**A** 他の省庁がそれぞれの所掌する分野についての情報収集、分析を行うのに対して、内閣情報調査室は、官邸直属の情報機関として、「内閣の重要政策に関する情報」の収集、分析を所掌しています。つまり、特定の政策目標に限定されることなく、幅広い事象を対象として情報の収集、分析を行うことが、内調の一番の特徴です。また、官邸と情報コミュニティ省庁との間の連絡調整を行い、情報コミュニティの「要」（取りまとめ）の役割を果たしていることも、内調が官邸直属の機関だからこそ担える役目です。

内閣情報調査室職員が収集し、分析している「内閣の重要政策に関する情報」とは、「内閣が適時適切に政策を立案、遂行するために必要な情報」のことです。国の重要課題は、その時々政治、経済、社会情勢によって、どのようにでも変化するため、内閣情報調査室の職員には、「情報に対する鋭敏な感覚と、時機を逸しないで対応するスピード感」が求められます。

## Q 内調は大体どのような職員が集まっているの？

**A** 内調では、約550名（内調本室約250名、衛星センターで約300名）の職員が働いています。このうち内調採用の職員が1/3弱を占め、その他は情報コミュニティ省庁をはじめとする他省庁からの出向者で構成されています。このように、内調は、他省庁で言う「局」程度の小規模組織であるため、先輩職員との距離が近く、担当業務や人間関係等に関する日々の悩み事を気軽に相談できる環境が整っています。また、多くの他省庁の職員と働くことで、他省庁の「色」を見ることができ、新たな発見に遭遇することも多々あります。自分に合った働き方、適性を見極めていく上で、様々な人の意見を聞ける機会が、日常的にあるのは内調という職場の魅力の一つになっています。

## Q 内閣情報分析官はどのような業務を行うの？

**A** 内閣情報分析官は、地域別、事項別の担当に分かれ、情報コミュニティ全体から集約した情報を総合的に分析し、情報評価書の原案を作成しています。情報評価書は、合同情報会議に諮った上で、官邸や情報コミュニティ省庁に報告され、政策決定に活用されます。



## Q 内閣情報調査室が収集・分析した「情報」はどこに行くの？

A 内閣情報官を通じて、総理を始めとする官邸幹部や国家安全保障会議（NSC）等の「政策部門」へ提供され、様々な政策判断を行う際の基礎となります。

特に、国家安全保障会議（NSC）は、外交・安全保障政策の司令塔として、関係省庁が収集・分析した情報を基に、国の戦略的意思決定を行い、国家安全保障局（NSS）は、国家安全保障会議の事務局として、国家安全保障政策の企画・立案・総合調整を行っています。内閣情報調査室は、情報収集及び政府が保有するあらゆる情報手段を活用した総合的な分析（オール・ソース・アナリシス）の成果を、これらの機関に提供しているのです。NSCやNSSが設置された今、適切な政策判断を行うための質の高い情報がより求められるようになっており、内閣情報調査室の担う役割はますます重要性を増していると言えます。



# 14

## 待遇・制度等

### ○初任給（平成29年度現在）

一般職(大卒程度試験)合格の場合…行政職（一）1級25号俸 220,140円（地域手当、本府省業務調整手当含む）  
※大学院卒、社会人経験のある方は俸給月額が加算されます。

### ○賞与（ボーナス）

期末手当、勤勉手当として、年間4.3月分（6月：2.075月分、12月：2.225月分）

### ○諸手当

扶養手当、通勤手当、住居手当、超過勤務手当等

### ○勤務時間

原則 9:30～18:15

### ○休日

年次有給休暇20日間（4月採用者は、その年の12月まで15日間）

特別休暇(夏季、結婚、忌引等)

※仕事と育児・介護の両立を支援する制度があります。

### ○福利厚生

共済組合制度（医療費の給付、診療所、契約施設（保養所等）の補助）、グループ保険制度（団体保険、団体積立）、診療所（内科、歯科）、直営病院（虎の門病院等）での診察、定期健康診断、人間ドック

このほか、内調職員同士の親睦を深めるためのサークル（野球、フットサル、テニス、ボウリング、プロ野球観戦、ハイキング、町中散策等）がそれぞれ活発に活動しています！





15

## 採用に関するQ&amp;A

## Q 採用はどのように決定しているの？

A 内調職員との面接を重ね、受験者の人柄、企画力、コミュニケーション能力、将来性等を総合的に評価します。当室の業務内容は多岐にわたるため、必要とされる人物像も多様です。

## Q これまでの採用実績は？

A 毎年概ね数名を採用しています。公務員削減傾向にある中、業務の重要性から、順調に採用を継続しており、本年度も国家公務員一般職（大卒程度）からの採用を予定しています。

◇本室（）内は女性

試験年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度 (予定)
行政区分	3人(0人)	4人(2人)	3人(1人)	3人(2人)	<b>3人</b>
技術系区分				1人(0人)	<b>1人</b>

◇内閣衛星情報センター（）内は女性

試験年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度 (予定)
行政区分		1人(1人)	1人(0人)	2人(1人)	<b>2人</b>
技術系区分	0人(0人)	2人(1人)	3人(0人)	2人(0人)	<b>3人</b>

※技術系区分については「電気・電子・情報」「機械」「物理」からの採用を予定しています。

## Q 職員に求められる資質は何ですか？

A 例えば、新聞、テレビ、雑誌、専門誌、インターネット等の様々なメディアからの公開情報を丹念に調べる作業を行うためには、問題の本質を把握する力、冷静な分析力、歴史的経緯を踏まえた深い知見等が必要となりますし、専門家と文字になっていない事実や情報をやりとりしたり、それらについて意見交換をしたりするためには、相手から信頼され、豊かな人間関係を構築する能力が必要になります。さらに、変化する内外情勢に応じて、組織が有するプロダクトを有効に活用し、情報業務を効果的に推進するためには、組織マネジメント能力も求められるでしょう。ただし、これらの能力は一朝一夕に身につくものではありません。これらの能力を、日頃の業務経験を通じて徐々に伸ばさせていく、そうした成長プロセス自体を楽しめることが、内閣情報調査室で勤務をするにあたり、求められることでしょう。

また、内調では、幅広い事象を対象として情報の収集、分析を行っているので、自分の関心が薄いテーマに立ち会ったときに、いかに好奇心を持って仕事をできるかという点も重要でしょう。



16

# 平成29年度採用スケジュール

4月7日～4月19日 国家公務員採用一般職試験(大卒程度)受付期間

6月18日 第一次試験日

7月12日 国家公務員採用一般職試験(大卒程度)一次試験合格発表

7月16日 官庁合同業務説明会

7月19日～8月7日 第二次試験(人物試験)日

8月8日午後2時～ 官庁訪問受付開始

8月20日 官庁合同業務説明会

8月23日 最終合格発表日

8月24日午前9時～ 官庁訪問開始

10月1日 採用内定



(2017年2月 人事院主催 女性のための公務研究セミナー)

▶内閣情報調査室では、  
随時、独自説明会を開催しています。

説明会の詳細については、内調採用ホームページの更新を  
チェックしてください。

[http://www.cas.go.jp/jp/saiyou/saiyou\\_index.html](http://www.cas.go.jp/jp/saiyou/saiyou_index.html)

(内閣官房ホームページ→採用情報)

▶質問は下記の連絡先にお問い合わせ下さい。

## 内閣情報調査室

採用専用TEL **03(5253)2107**

採用専用Mail **ciro-saiyou@cas.go.jp**

## 内閣衛星情報センター

採用専用TEL **03(3267)9564**

## 採用担当者より

採用担当者として業務説明会の場でよく受ける質問で、「どのような人材を求めているのですか?」と聞かれることがあります。「積極性」「柔軟性」「コミュニケーション能力」等、どれも求められる重要な要素ですが、情報を扱う仕事は奥が深く、裾野も広いため、求められる人材も一言で言い表せない部分もあり、内調という職場は、あなたの中に眠っている新たな能力が開花する可能性も秘めています。

「情報ってなんだか難しそう」、「自分にはアピールできるポイントが少ない」、「採用枠が少ない」等、なんとなくハードルが高いイメージをもってしまいかもかもしれませんが、ぜひ気軽に業務説明会に参加していただき、職員や採用担当への質問等を通じて、内閣情報調査室の魅力に触れていただければと思っています。

私も初めはあなたと同じく、よく分からない中からのスタートでした。このパンフレットを手にとっていただくことが、内閣情報調査室で、あなたの中に眠る可能性を開花させることに繋がる第一歩となればと期待しております。